

令和7年 日本歯科医師連盟主催「若手研修セミナー」

令和7年1月29日(水)午後12時30分より、日本歯科医師連盟主催による若手研修セミナーが千代田区市ヶ谷の歯科医師会館にて行われました。各都道府県の若手連盟会員約101名が参加しました。

当日は比嘉奈津美日歯連盟顧問が国会会期中にもかかわらず昼休みを利用して来場いたしました。また、高橋英登日歯会長は診療報酬改定を含む活動報告を熱っぽく語っていただきました。

さて、講演では3名の講師による、連盟活動の意義と重要性を自分の経験、特に失敗談を前向きに出しながら語っていただきました。

1人目の講師、林奨太先生(東京医科歯科大学卒)は、山田宏日歯連盟顧問の秘書経験や自信の落選した船橋市議選の話をお伺いしました。

2人目の講師、東田淳平先生は、歯科医師ではありませんが、商社勤務の経験から「誇りが持てる国」にしたい。その想いで今年の総選挙で落選はしましたが、大阪6区で自民党の候補として活動した経験を語っていただきました。

3人目の講師、布施孝尚先生(日本大学歯学部卒)は、宮城県登米市長としての行政経験を中心に、東日本大震災での対応を含めたお話をいただきました。

それぞれの講師のお話とともに連盟活動の周知をこれまで以上にする必要性を、また現実においては保険診療を生活の糧とする歯科医師は、その生活・経営の向上において、与党への働きかけは好き嫌いを消して行われなくてはならないという事実を共有しなければいけない。そのため連盟は会員に「何をしてくれる」という会員へのメリットを上手に伝える力をつけてほしいという今回のセミナーの目的を再認識する機会となりました。

なお、太田日歯連盟会長は、飛行機の遅延の為、到着がかなり遅くなりましたが、ご挨拶の際、くれぐれも連盟活動を会員の目に見える形で伝えて欲しいと語られました。

記：山梨県歯科医師連盟副理事長 白井 士高